

## 【初年次教育センター】令和7年度 FD 活動の「年間計画」

### 1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

初年次教育科目は、新入生が本学での学びにスムーズに適応し、社会で求められる力の素地や専門教育を学ぶための教養を身に付けながら、本学で学ぶことへの誇りを持ち、学生生活へのモチベーションを高めることをねらいとしている。例年、履修希望者が多く、抽選に漏れる学生も少なくない。授業の質の維持を優先しつつ、履修希望者にとって適切な定員設定やクラス数を確保するための見直しを、今年度も継続して検討する。

例えば、履修希望者が多い科目である「京都産業大学と京都を知る」や「京都産業大学を活用する」では、学長をはじめ本学を構成する組織の責任者、専門研究者、本学に縁のある有識者（卒業生）から「京都産業大学論」や活用方法を聴き、初年次のうちに、京都に立地する本学で学ぶことの強みを知り、多様な世界に向き合う適応力や課題解決力を身に付けながら、誇りを持ち、学びのモチベーションを高めることを目標としているが、応募者が多く、希望者が受講できなかった昨年度までの状況を改善すべく、今年度は履修者の上限を 330 名とし、対面での質疑応答に加え、moodle 機能をも活用しながら双方向的な授業展開を試みる。

また、「自己発見と大学生活」は、統括・副統括教員、F 工房スタッフ、受託先企業担当者、学生ファシリテータ、担当教員の協働によって、初年次生が安心できる環境で自分の望む将来像を描き、学生生活の目標を見つけ出すことを目的とする学部横断の参加型授業である。学生と協働して授業を行うノウハウが蓄積された完成度の高い科目だが、今年度は、更に充実・改善された教材、改訂版『自己発見と大学生活～初年次教育のためのワークブック～』（第2版、ナカニシヤ出版、2025/3/20）を用いて授業を行う。また、本科目において担当教員と協働して授業運営を担っている学生ファシリテータは、ワークの進行やグループワーク介入などのサポートを行っているが、技術力の向上の一方で、授業へのコミットメントの適正化を図ることが課題となっている。統括・副統括教員を中心に、新任教員を含めた教員と学生ファシリテータとのコミュニケーションを向上させることで、同一内容で進行する全 30 クラスの授業が、より安定した運営を確立できるように改善する。

「日本語表現」「批判的思考と論理的表現」では、今年度、統括教員が不在となっているため、授業の均一性を担保するための改善策を検討する。また、同一テキストを使用している「批判的思考と論理的表現」については、成績評価基準を定めることを目標とする。

上記に加え、全学的により質の高い初年次教育を提供することを念頭に、まずは、各学部で行っている初年次教育のカリキュラム上の特色、教育の目的（到達目標）、授業の運営の仕方や状況などについて情報共有を行う。具体的には、初年次教育センター運営委員会で、各学部を代表して出席している委員から話を聞き、自由な雰囲気での質疑応答をすることによって、各学部で行われている初年次教育と、初年次教育センターが提供する初年次教育の、それぞれの特色と違いを共有する。

### 2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ：「自己発見と大学生活」における学生ファシリテータの役割と機能の更なる向上・成長、新規学生ファシリテータのリクルーティングを行うことに加え、担当教員と学生ファシリテータのコミュニケーションの質を向上させることによって、学生ファシリテータの授業へのコミットメントの適正化を図る。

(2) 目的：「自己発見と大学生活」は開講から 15 年が経ち、教員と学生ファシリテータが協働して創り上げる本学独自の科目である。学生ファシリテータが授業のサポートをするにあたり、個々の能力が向上している中で、授業運営への関わり方について、教員の役割と学生ファシリテータの授業へのコミットメントの仕方の適正化を図る必要がある。

(3) 期待する効果：1 キャンパス総合大学という本学のメリットを最大限活かし、30 クラス約 2000 人が履修する「自己発見と大学生活」は、全 10 学部の混合クラスであるため、入学したば

かりで、知り合いのいない初年次生にとっては、学部を超えた横のつながりができるとともに、本学をよく知っている上級生の学生ファシリテータとも交流でき、新入生が本学での学びにスムーズに適応するのにうってつけの授業である。担当教員と学生ファシリテータのコミュニケーション向上により、授業の更なる質向上と安定した授業運営が行えることが期待される。

### 3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

#### (1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

「自己発見と大学生活」担当教員対象研修会：3月～8月までの期間中、4回開催

「自己発見と大学生活」新任担当教員対象研修会：3月、4月に2回開催

#### (2) その他研修会等：

※(1)以外の学部FDとして実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

「自己発見と大学生活」担当教員情報交換会：5月、6月に2回開催

※この内容は本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。